

ナリ、春ニ至テ花ヲ開ク、故ニ晚山茶ト名ク、秘傳花鏡及ビ洛陽花木記ニ出ヅ、京師紙屋川地藏院ニアリ、因テ此等ラツバキ寺ト云、凡ソ山茶ノ實ヲ搾テ油ヲ採ルヲ木ノ實ノ油ト云、一名カタシ  
アブラ、防州カタアシ、長州カタイシノアブラ、肥前髮子バリテ梳ノ通ラザルニ少シ、灌ケバ、サバ  
ケテ梳リ易シ、土ニ灌ゲバ能ク蟲ヲ殺ス、

増草木藥方雜記曰、日本山茶花其國名爲椿、不名以山茶也、白者以白玉最、白玉一種花大色白而香  
香如我里白百合花之香、開放于二三月、次則唐笠也、白妙也、在高根、則又其次也、至于白菊六角之類、  
花朵小不取焉、紅者以中爲最、花大而香、加賀牡丹甚佳、花色大紅如牡丹、花瓣邊或有吐露白邊者、次  
則大紅牡丹、與渡守春日俱妙、雜色最佳者、莫如有川、其白上有紅色、如雲朝露、其色紅有白點者、亂拍  
子亦然、有薄衣色、如醉楊妃者、有大江山、一本有三四色者、有三國、一本乃三色者、有玉簾、一本四五色  
者、尙有浦山、開荒浪、鳴戸、關戸、金水、引皆爲上種、有加平牡丹、唐絲鏡山、唐椿山、海牡丹、諸種皆其下者、  
共有五百種、有一種天下奇、開花朵色百樣、其國內亦少不可得者、有一種名五寸ト云、桃桐遺筆曰、日  
本紀天武天皇十三年三月癸未朔庚寅、吉野人宇閉直弓貢白海石榴トアリ、是ヲ白ツバキト訓ジ、  
又和名抄ニ、海石榴ヲ豆波木ト訓ズ、共ニ誤ナリ、海石榴ハ朝鮮ザクロナリ、海石榴ヲツバキニ充  
ルハ、卽山茶花ノ一種、花小ニシテ大ナ海石榴ノ花ノ如ク、蒂ハ青クシテ筒瓣ヲナス、是ヲ俗ニワ  
ビスケト名ク、卽海榴茶ナリ、一名海紅花、楊升庵文集コノ海榴茶ト海石榴ヲ混ジ誤ルナリト云フ、

〔地錦抄附錄三〕延寶年中渡品々略○中

唐椿 カワツバキ 朝鮮椿 テウセンツバキ 柘椿 ヒライギツバキ

今植るいろ／＼の花椿は、和朝にて出來たる物か、大和本草に天武の御時白花の椿を貢す、寛  
永の初めより紅白ひとへやる品々出來す、烏丸光廣卿の百椿圖序に、此比世に品多く出來た  
りと書りとあり、唐椿は延寶に來る、